

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1270101569		
法人名	レビーケア株式会社		
事業所名	レビー・グループホーム白雲館(2階)		
所在地	千葉市中央区弁天3-17-2		
自己評価作成日	令和2年12月18日	評価結果市町村受理日	令和3年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	令和3年1月18日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

千葉駅周辺だが自然に恵まれており、季節を感じて頂きながら生活して頂ける環境である。その方の夢を叶えられるよう法人として取り組んでおり、認知症による周辺症状を最大限に軽減し穏やかに生活して頂けることを目指している。その方の能力に応じた家事などを手伝って頂きながら、残存能力の維持に努めている。近隣の千葉公園や護国神社に散歩に行くことを日課にしていたが、今年度はコロナ感染症の影響でほとんど行えていないが、ホーム全体でご入居者様の命をお守りするために懸命に取り組んでいる。健康管理に関して、今年度10月より、協力病院を24時間対応の病院に変更したことでより安心して生活して頂けるようになった。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

JR千葉駅から徒歩で10分ほど、護国神社や広大な千葉公園に隣接し、自然環境に恵まれ訪問や散歩に便利な鉄筋コンクリート3階建てのホームです。1階に系列のディサービス、2〜3階がグループホームで、各種行事、避難訓練、ボランティアの受け入れなどで連携し、効率的に運営されています。法人の理念の他、ホームの独自の理念「できることを維持しふやす」「地域(社会)とつながって」を掲げ、全職員は共有し、利用者に役割や生きがいを感じて貰えるように、利用者の意向に沿った支援に努め、利用者は穏やかで落ち着いた生活を送っています。コロナ禍で、地域密着の交流行事は中止ですが、感染予防に配慮しながら、ホーム内のイベント(夏祭り・敬老会・大運動会など)を毎月行い利用者の楽しみになっています。また医療面では、訪問診療医の24時間対応や訪問看護師、職員の連携のもと、看取りの体制も整っており、家族に安心感を与えています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1〜55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念である「できることを維持し、ふやす」「地域(社会)とつながって」をフロアに掲示し、毎日申し送り時に唱和・共有し日頃の対応の中で実践に努めている。今年度は地域との関りを行うことができなかった。	地域密着型サービスの意義を踏まえた簡潔で覚えやすいホーム独自の理念2項目を、フロアに掲示し、申し送り時に唱和・共有し日頃のケアの中で既に実践に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は地域と関わることが、ほとんどできなかったが、敬老会に毎年演奏をお願いしている近隣の高校の吹奏楽部の方々がDVDを製作し届けてくださり、ご入居様にご覧いただいた。	理念に「地域とつながって」を掲げ地域の行事や社協祭りなどの交流を積極的に行っています。現在はコロナ禍の為ボランティアの受け入れや行事を通じての交流はありませんが、高校の吹奏楽部との交流は続けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、目立った取り組みは行っていないが、地域の方々の介護相談はいつでも受け付けている。今後、地域の方々とあんしんケアセンターの架け橋になれればと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、会議の開催は7月に1度行っただけだが、ご家族様、安心ケアセンターや民生委員、消防団の方々には、文書で入居状況等をお送りしご意見を頂いている。	会議は年4回、地域包括支援センター、町内会長、民生委員、消防団員、家族、職員などが参加し開催していましたが、今年度はコロナ禍により4回のうち3回は、書面による開催を行い、運営状況などを文書で参加メンバーに送付して意見を貰い、サービスの向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	直接担当者と緊密な関係を築くのは困難だが、独居の生活保護受給者の必要な手続きは、担当ケースワーカーと連携し行っている。	千葉市や区の関係課とは、メールや電話で必要時に連絡を取り合っています。また運営推進会議には毎回地域包括支援センターの出席があり、意見交換し情報やアドバイスを受けるなど、密接な協力関係を続けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	各フロアの入口に法人の身体拘束禁止マニュアルを掲示し、定期的に身体拘束禁止委員会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。各フロアの玄関は防犯上施錠を行っているが、1階の入り口は施錠を行っていない。	身体拘束ゼロ宣言を謳い、マニュアルも完備しています。ホーム長は、年4回身体拘束廃止委員会を開催し、周知徹底を図り職員も理解しています。各フロアの出入り口は、家族の了解を得て施錠していますが、職員は拘束感を抱かせぬよう見守りをしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で虐待防止について定期的に研修を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用している入居者様が2名いらっしゃる。今後も必要と思われる入居者様には関係者と話し合い活用できるように支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前と契約時に実際の介護や事故等の例をあげて説明と理解を求め、契約内容についてはすべて読み合わせと疑問に答えている。入居後の変更に関しては更新の書類を作成し同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご入居者様はもとよりご家族様にもご意見や苦情を言いやすい関係作りを心掛けている。また、御家族が来訪した際になどに御意見や要望を聞き運営に反映するようにしている。ご入居者様とお話する機会をあまり作れなかったので、今後はスケジュールに組み込み定期的にお話する機会を作りたいと思っている。	家族については、来訪時(現在は自粛しており、ラインによるオンライン面会)、運営推進会議、行事参加時などで意見・要望を聴いて運営に反映させています。外部評価の際に実施する家族アンケートも参考にしています。利用者については、日頃の触れ合いの中から思いや意向を把握しています。(毎月介護相談員を受け入れていましたが、現在は見合わせています。)	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、経営者が全体会議に参加し法人の経営方針や理念を伝え、職員の意見や提案を直接経営者に伝える場として活用していたが、今年度は密を避けるために全職員参加の会議は行えなかったが、申し送りノート等を活用し会社の方針は職員に伝えている。9月にホーム長と全職員との個別面談を行ったので今後も定期的に行いたいと思っている。	ホーム長は、日頃の対応や、個人面談の中から意見・要望を吸い上げ運営に反映しています。また月1回法人の経営者が出席する全体会議があり、意見交換の機会は多くあります。またホーム長は、職員との信頼関係が出来ており、普段から何でも言い合える環境があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度、法人で給料の見直しを行っている。また、賞与の査定は、法人の代表者から直接本人に伝えやりがいにつなげている。設備面での整備は随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を設けており、希望のある職員に対しては資格取得の助成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市のグループホーム連絡会に加盟し研修の連絡は受けているが、今年度は参加できていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けた段階から、ご家族様とご本人に適した面談方法を相談し、ご本人の困っていることなどを言いやすい環境づくりを心掛け、信頼して頂けるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居後の不安などを入居前より聞き取りを行い、安心して頂けるような関係作りを心掛けている。入居後はこまめにご本人の様子を電話などでお知らせしている。ご面会に関しては今年度は制限させていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人 ご家族から話を聞くとともに前ケアマネより情報を収集している。入居後、ご本人の行動を観察し、出来ること出来ないことの見極めを行い、ご本人の意向に沿った支援を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる家事などを手伝って頂きながら、一緒に生活している仲間としての関係作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は、ご面会や外出は控えていただいているが、ご入居者様の状況に応じ必要になったものなどご連絡しご家族様にご協力いただいている。来訪して頂くことが困難なため、クリスマス会の様子を動画での生配信を試みた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症の拡大状況に応じ、土日限定で面会を行ったり、ウェブ面会などをご利用いただいている。	コロナ禍ですが土日に時間と人数を制限しての面会を行っています。面会を2人までとしており、家族が交代で利用者と会う場面もあります。また利用者の様子を電話や動画で家族に伝えています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常にフロアーに職員がいることをマニュアルにし、入居様同士の交流を見守り、トラブルにならないように職員が間に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じて相談を受け付けるなど、柔軟に対応している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は会話の中からご入居者様の思いを拾うよう努力している。コミュニケーション可能な人が殆どだが困難な場合は履歴や家族情報、日中生活の行動パターンから、必ず「どうしたの?」と一声かけて先読みして支援している。	以前は所属している団体の会合に参加したり、家族の行事に参加するなど利用者の希望を大切にしていたが、今はホームでの生活の中で、好きな塗り絵や、歌など利用者の楽しみを見つけて支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人 ご家族 前ケアマネよりお話を伺い、入居後も随時ご本人やご家族からお話を伺う機会を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の生活の様子を記録に残し、ケアプラン作成のために利用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の訪問時や電話で御家族の意向を把握し、主治医の意見や職員からの意見を反映し、3か月に1回モニタリングを行い、半年に1回の計画見直しに活かしている。また体調変化時や介護認定の更新時等に、随時見直しを行っている。	入居前の面接で、本人、家族の意向を聞きとるとともに、医師や関係機関からの情報をもとに暫定の介護計画を立てます。入居後の様子を細かくアセスメントし、職員と話し合っって本計画を立てています。3か月ごとに決まった書式を用いてモニタリングし、半年・変化時・更新時に計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を詳細に記録し、職員に記録を見るよう指導を行っている。また、計画作成者は記録を見て自身の計画が活かされているか確認を行い疑問があれば職員に聞き取りを行っている。ケアの変更は申し送りノートに記入し共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズに沿い、外出支援を行ったり、訪問マッサージなど施設にはないサービスを希望された場合は、必要な連絡を行い利用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度は、地域と関わりを持つ機会はほとんど行えなかったが、近隣の高校の吹奏楽部の皆様とは友好関係構築されていたため、敬老会にDVDを作成し届けてくれたため、ご入居者様にご覧いただくことができた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年度24時間対応して頂ける病院に協力病院を変更し、より安心して生活して頂けるよう改善した。殆どのご入居者様が主治医を変更されるが、入居前からのかかりつけ医を選ぶ事も出来、御本人の状態をご家族様に伝え受診をして頂いている。週に1度訪問歯科が来訪している。	入居時に本人・家族にかかりつけ医を選択してもらっています。ほとんどの利用者は24時間対応の訪問医により健康を管理しており、緊急時には医師の指示を直接仰ぐ事ができます。また訪問看護、訪問歯科とも連携を取り、必要な医療支援が受けられています。専門医への受診は家族が行っていますが、必要に応じて職員が対応することもあります	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に2回程度訪問看護師が来訪し、その際に入居者様の状態を報告し、健康状態の把握を行っている。また、必要になった方は個人で訪問看護と契約して頂き適切なケアを受けられるよう連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様に入院が必要となったときは、主治医に紹介状を書いていただき入院先に入居者様の状態がわかるようにし、入院中は適宜お見舞いし、退院決定後は必ず病院に行き入居者様の状態を確認するとともに看護サマリーにて情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化・終末期ケア対応について」を説明し、御本人・家族からの同意を得ている。重度化した場合、御家族の意向を聞いて、主治医と話し合い、訪問看護と医療契約を結んで頂く等、御家族の意向に沿えるよう支援を行っている。	入居時に「重度化対応・終末期ケア対応指針について」を本人・家族に説明し、同意を得ています。医師が終末期と判断した場合には家族と話し合いを重ね、納得のいく最期を迎えられるよう体制を整えています。看取りは3年間で1名ですが、今後は看取りの充実を図るため、職員の研修を行っていく予定です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事故対応の研修を行い、応急処置マニュアル 緊急時マニュアルを作成し全職員がわかりやすいところに掲示し、いざというときにスムーズに行動できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は蜜を避けるためほとんどご入居者様を交えた避難訓練は行えていないが、職員間で図面を利用したシミュレーションは適宜行っている。また、定期的に備蓄品の見直しを行い、風水害に際してのマニュアルを作成している。	今年度の避難訓練は、年2回消防署の指導を受けて職員による図面訓練(シミュレーション)を実施しています。スプリンクラーや自動通報装置等必要な防火設備は整い、耐震・耐火の建物なので、利用者に安心感があります。緊急時の連絡網や対応表も掲示され、備蓄は3日分用意してあります。	各種災害に対応できるよう運営推進会議で意見交換していますが、消防署、町内会(地域住民)と連携した合同災害避難訓練を実施すること、および備蓄品(防災用品を含む)の内容、数量の見直しを継続することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の尊厳を損なわない対応及び利用者様は基本的に「さん」付けで呼ぶよう指導している。排泄介助の際はドアを閉め、居室に入室するときはご本人に確認するなどプライバシーの確保に努めるよう指導している。接遇に関する研修も年に一度行っている。	個人ファイル、医療情報などは各階の事務所で保管しています。また排泄は耳で静かに声かけし誘導したり、入浴や排泄介助の際の利用者の羞恥心への対応もしっかり行っており、一人ひとりの利用者の尊厳を守る支援を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は言葉で表現できない入居者様の思いや希望が把握ができるようにコミュニケーション能力の向上に努め、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝のラジオ体操や清掃など習慣として行っていることはあるが、その他の決まりごとは作らず、その日の入居者様のペースに合わせ出勤した職員間で話し合いを行い希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服装など可能な限りご自分で選んで頂き、鏡の前で洗顔や整容を本人の能力に応じて行えるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	今年度、食材納入業者を変更し、よりご入居者様に食事を楽しんで頂けるよう努力している。ご入居者様のご希望に応じ、週に1度の朝食をパンにし、イベント時にはご希望のメニューを購入し召し上がって頂いている。また、状況に応じ食事形態を変更している。	利用者は食事の配下膳、お盆を拭いたり、おしぼりをたたむなどできることを見つけて行っています。また利用者の意向を反映して人気の寿司が食卓にのぼったり、通常のメニューを変更して麺やカレーの日にするなど、食事を喜んでもらえる工夫が見られます。イベントの時にはおやつ作りも楽しんでます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は記録し把握している。10時と15時にお茶の時間を設定し、ご希望の飲み物をお伺いして提供している。またホームで常時用意していない飲み物に関しては、ご家族様に用意して頂き必要水分量が確保できるよう努力している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居前の習慣もあるので、ご本人に合わせた支援を行っている。定期的に訪問歯科の検診を行い清潔保持を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を作成しご本人の排泄パターンの把握に努め、能力に合わせた支援を行っている。必要に応じポータブルトイレなどを活用したりして、能力的に困難な方以外はトイレでの排泄ができるように支援している。	排泄チェック表で排泄のパターンを把握し、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。入院時はオムツ着用だった人が、退院後、トイレ誘導することでリハビリパンツになり、失禁が減るなど改善が見られた例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事や水分摂取により予防を心掛けている。必要に応じ医師と相談し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴可能時間を毎日10時から16時ころに設定し、ご入居者様に2日に1回声をかけさせて頂き、その日の過ごし方に合わせご本人に確認しながら入浴して頂いている。	基本は2日に1回のペースで入浴していますが、個々の体調に合わせて柔軟に対応しています。拒否のある人には声かけを工夫して入浴できるよう働きかけています。入浴中は職員と一緒に歌をうたうなど、利用者にとって楽しい時間になっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の1日の過ごし方はその方に合わせ支援している。必要に応じ日中の臥床時間を設置し、昼夜逆転の予防に努めている。毎日夜間の様子を記録に残し、必要に応じ医師に相談を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	今年度連携薬局を変更し、薬剤師が定期訪問診療時に同席し配薬を行っている。実際にご入居者様に与薬するのは職員だが、薬の変更等は、随時申し送りノートに記入し、職員に共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームの掲示物などの作成を行って頂き、その日のご本人の状態に合わせ家事を手伝って頂き役割をもって生活して頂くことを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	残念ながら今年度は外出して頂くことはできません。	外出の自粛ということでこれまでのように外出はできませんが、人手の少ない時間帯に少人数で散歩したり、広いベランダで外気浴をしています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭管理は施設で行っているが、入居者様の能力に合わせ自己管理している入居者様もいる。ご入居者様に買い物に出かけていただくことができないので、毎週土曜日はご入居者様のご希望をお伺いし買い物を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要に応じ施設の電話を使用して頂いたり手紙の中継ぎなど、その方の希望に合わせ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは陽当たりもよくゆったりとした共有スペースであり、季節に合わせ室温管理を行い快適に過ごせるようにしている。壁には季節に合わせた入居者様の作品を掲示している。	明るく広いリビング兼食堂は、綺麗に掃除され清潔感があります。各居室からすぐリビングに出られるので、利用者に安心感があります。厨房からの匂いや音で生活感があり、壁には、季節の貼り絵や行事の写真が飾られ、コロナ禍ですが、利用者は体操、歌、ゲーム、塗り絵、季節の貼り絵などで元気に普段通りに居心地よくゆったりと過ごしています。ホーム長は、換気や臭いなどの室温管理に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには大きなテーブルがあり、テレビの前にソファを用意している。食事の時の席は決まっているがその時に応じてお好きなところで過ごして頂くようにしている。居室はリビングに面しているため気軽にお一人の時間を過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、エアコン・クローゼット・カーテンが備え付けられており、家具やベッドなどは自宅で使い慣れたものを持参してもらい、出来る限りご本人の希望に応じて配置して頂いている。必要に応じて衣替えなどを行い快適に過ごせるよう支援している。	広い居室は、掃除が行き届き清潔できれいになっています。利用者は、自宅に居るように安心できる空間で、使い慣れた馴染みのテレビ、家具、家族の写真、カレンダーなどを持ち込み居心地よく過ごしています。職員は、整理整頓や衣替えの他、臭いや室温にも気を配っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、安全に生活して頂けるようになっている。居室にネームプレートやトイレがわかりやすいように示し、混乱なく生活できるよう支援している。		